

府立中津支援学校 平成30年度「学校運営協議会」議事録（第2回）

日 時	平成30年11月6日（火） 10:00～12:00			
出席者	協議会委員	所属等	学校事務局	校務分掌等
	五石 敬路	大阪市立大学大学院准教授	川田 和子	校長
	田中 博之	大阪整肢学院 院長	井筒 文彦	教頭
	花咲 典之	中津連合振興町会会長	水迫 英紀	事務長
	岡 博文	新梅田フィラソフズクラブ 会長	川村 弘之	首席
	米田 秀	中津更生園施設長	山中 有美子	首席代行
	小林 信恵	森ノ宮医療大学 特任教授	橋本 和枝	小学部主事
			廣瀬 めぐみ	中学部主事
傍聴人			清藤 和典	高等部主事
おもな テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の取り組み ・各P T（プロジェクト）・WG（ワーキング・グループ）の取り組みについて ・平成30年度学校経営計画進捗状況について ・保護者からの意見書及び授業アンケートについて ・平成30年度学校教育自己診断について 			
協議内容 の概略	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 ・各学部（小学部・中学部・高等部）の取り組み紹介 ・各P T（教育課程検討、自立活動、校外学習・泊行事全体計画）・WG（教材教具等開発・共有）の取り組みについて ・平成30年度学校経営計画進捗状況について ・保護者からの意見書及び授業アンケートについて ・平成30年度学校教育自己診断について ・地域との取り組みのさらなる推進について 			
提言内容・ 改善方策	<p>意見・提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに地域の保育園、小・中学校、高等学校と交流されているが、地域の小学生中学生にも、色々な人がいて当たり前という意識付けをしてもらいたいので、特に交流校の小学校と中学校に対してはもっと機会を増やしてほしい。 ・在学中より社会に出てからのほうが長い。社会に出る前までに学校で経験を積み重ねて、社会へのイメージをふくらませ、道筋をつけていくことが大切である。 ・次年度も学院リハビリテーション部と学校が協力して、「自立活動」の質と教員の専門性を向上させる取り組みを継続・推進してほしい。 ・地域の方や地域の子供達は、障がいのある方と関わったことが少ない。災害時のことも考慮すると、お互いに顔見知りになっておくということは、今後生活していく上で大切だと考えられる。 ・タブレット端末で授業をされていたが、訓練というだけでなく、意思表示の手段としても意味のあることだと思う。 			